

いば議会だより

第109号

令和5年2月

発行
編集

宮崎県椎葉村議会
議会だより編集委員会
〒883-1601

宮崎県東臼杵郡椎葉村大字
下福良1762番地1
TEL(0982)67-3209
村内無料電話7-67-0091

よくやった!



1月9日 市町村対抗駅伝



12月定例会 ……(2～4)

一般質問 ……(4～9)

議員活動報告 ……(9～11)

議会の動き ……(12)

令和4年12月定例会

村議会12月定例会が12月14日(水)に開催され、村長から教育委員の任命の人事案件や令和4年度一般会計補正予算及び特別会計補正予算などの議案が提案され、提案どおり議決し閉会しました。その概要は下記のとおりです。

また、4名の議員(椎葉一議員、河口吉弘議員、尾前秀久議員、那須重美議員)から多様な一般質問が行なわれ、村長の見解を質しました。

教育委員会委員 蔵座二九生氏の任命に同意

氏 名	住 所	任 期
蔵 座 二九生 氏 (69歳)	椎葉村大字不土野741番地1 (尾向 尾手納)	自 令和4年12月17日 至 令和8年12月16日



地方公務員の定年を上げるための椎葉村職員の定年等に関する条例の一部を改正する条例を可決

少子高齢化が進み、高度化・複雑化する行政課題に対応するため、能力と意欲のある高齢期の職員を最大限活用し、次世代に知識や技術、経験を引き継いでいくため、令和5年度から令和15年度までに段階的に、地方公務員の定年を現在の60歳から65歳に上げるための条例改正です。

また、医師及び歯科医師、獣医師の定年については同様に、現在の65歳から70歳に上げるものです。



令和4年度補正予算

(千円以下は切捨)

会計名称	補正前の額	補正額	補正後の額
一 般 会 計	65億9,705万円	10億6,883万円	76億6,589万円
国民健康保険特別会計	3億5,864万円	77万円	3億5,942万円
簡易水道事業特別会計	9,453万円	△ 15万円	9,438万円
国民健康保険病院事業特別会計	5億1,470万円	0円	5億1,470万円
電気事業特別会計	1億8,759万円	2,504万円	2億1,263万円
介護保険特別会計	4億4,522万円	2,759万円	4億7,281万円
後期高齢者医療特別会計	8,444万円	△ 7万円	8,436万円
ケーブルネットワーク事業特別会計	1億3,181万円	△ 1,280万円	1億1,901万円

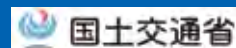
(一般会計補正予算の概要)

- ・庁舎照明のLED化工事 726万円
- ・針金橋屋内ゲートボール場拡張工事 692万円
- ・出産・子育て応援交付金 215万円
- ・漁業継続緊急支援事業補助金 280万円
- ・集落道開設事業補助金 100万円
- ・林道関連施設災害復旧工事請負費(78箇所) 5億2,950万円
- ・道路橋梁災害復旧工事請負費(69箇所) 5億8,400万円
- ・十根川伝統的建造物保存地区災害復旧事業補助金 1,280万円



国道327号 道路崩壊箇所位置図(宮崎県東臼杵郡諸塚村)

ひがし うす き もろ つか そん



出典: 地理院地図に道路被災箇所等を追記して掲載



327号松の平国道仮復旧現場



327号竹の八重

間柏原村営発電所災害復旧工事請負契約を議決

令和4年11月29日に開催された第5回臨時会において、台風14号により被災した村営間柏原発電所の災害復旧工事請負契約締結の議決を行ないました。台風豪雨を原因として耳川増水による発電所建屋内の浸水、発電機や配電盤など被災したことによる災害復旧工事請負契約です。

契約の目的 台風14号間柏原発電所災害復旧工事

契約の金額 2億2,990万円

工 期 令和4年12月6日～令和7年3月25日

契約相手方 日本工営株式会社 エネルギー事業統括本部長 横田裕史



台風14号により浸水した村営発電所



浸水被害を受けた発電所内部

村長に聞く！ ～ 一般質問 ～



しいば はじめ

椎葉一 議員

質
問

**人口減少高齢化
の中での椎葉村
の方向性は！**

問1

人口減少高齢化社会
において村は今後ど
う対応し進んで行くのか考

える。

第6次長期総合計画には人口が2040年には1,344人になると予想がされており、行政では特にUターン事業の移住・定住促進に取り組み、地方への移住・定住希望者が増加傾向にあると思う。村全体で考えると、林業・農業・畜産業の従事者、建設業・観光業・商工業の従事者、病院・老人ホーム等の各事業所で働く若い世代を最も必要としているが、現在、椎葉村への移住・定住希望者はどれぐらいいるのか。また、移住・定住希望者の求めているものは、秘境での田舎暮らしや働く環境を求めていると

思うが、一方で行政が必要とする人材確保は出来るのか。

特に林業・農業の人手不足は、早急な問題だ。高齢化により山林が荒廃化し、台風災害等の影響で耕作放棄地が増加すると考える。

今後、住環境の充実により、単身者向け住宅・サブリース事業・空き家対策も含めてどう展開していくのか。

また、ここ数年で移住・定住している者への特別な支援等がないものかと考え、椎葉村へ移住しての生活状況や利便さの把握の必要性があるのではないかと考え村長の見解を求める。

答1

人口減少は全国的な課題であり、椎葉村でも積極的な移住希望者へのPRを行っている。登録者数が34,000人をサイトで長期間本村が1位という成果を上げ、本年度より国・県の移住支援金に加えて椎葉村独自の支援給付金事業を開始し、現在10人が対象となり転入している状況である。指摘の通り、生産人口

は2020年の823人から2030年には552人33%減少となり、産業だけでなく集落機能や農地・山林の保全など様々な影響が懸念されている。

こうした課題に対してUターン促進は正に村の存亡に関わる重要な政策であると認識し、医療・子育て・教育・住居など多くの要因が関わり、総合的に取り組む必要がある。

要因の一つとして、住環境整備を担う建設課・移住促進を担う地域振興課で協議し長期総合計画に沿ってUターン促進の為に公営住宅・空き家利活用等具体的な計画策定を行うとともに、既に移住されている人への支援について、悩み事・困りごとのフォローを含めた支援、Uターンの声を移住希望者に発信する体制構築を次年度に行いながら、求められる支援策について効果的な事業を設けていく。Uターン促進は全国的な競争の状況にあり今後、椎葉村における重点政策として取り組んでいきたい。

問2 中山間地域の椎葉村を支え継続する為に人材確保、特に農林業に携わる人材が確保出来るのか、具体的な人数、数値予測を持っているのか。Uターン促進事業では、村独自で5年定住家族2人以上で100万円・単身者で60万円・15歳未満の世帯員30万円など全国レベルの中でも手厚い移住支援給付金事業だと考えるが移住希望者も、より良い条件の移住先を選択している。更なる椎葉村の農林業・建設業・観光業・そして子育て・教育・医療・住居など魅力ある暮らしの再発信の必要性を感じる。現在、私の地区には移住者夫婦1組・移住して夫婦1組・単身者4名・子供2名・シェアハウスで1年間移住1名・村内居住で仕事、消防団、行事参加で2名・4年度Uターン者3名、協力隊卒業者を含めて14名が定住しようと頑張っている。人口減少の中で地区人口約200名のうちの14名なのでかなりの高齢化率緩和になっていると感じる。山林や農地を守る肉体労働の移住・定住者はいるのか。今後効果的な事業を計画作成するとの回答だが、中山間地域の椎葉を支える人材確

保が出来るのか再度答弁を求める。

答2 林業における新しい人材の件は地域協力隊を利用してその制度を今後も広げて行こうとしている所であるが造林事業に対する制度に人が集まって来ない現状である。今年度の支援事業に既に10名が転入しているがまだまだPRが足りない。特に今後、移住・定住者を支える事業も必要だと考える。

問3 村中央部の上椎葉地区に多数の空き家があるが、移住・定住希望者の体験施設を作り、一定期間居住しての農林業・その他の事業等の体験型運営は出来ないものか。若いUターン者が仕事の合間に青年団・婦人会・消防団・地区行事に参加し、伝統芸能の神楽に舞手や笛吹き等で貢献しているが、彼ら彼女らに秘境で理想的な田舎暮らしが出来ているか問うとほぼ満足して生活しているとの答えだが、家賃の問題や生活資金の継続確保の問題がある。移住者間での意見交換会・現状調査を行い、効果的な事業を展開し希望ある未来作りを要望して再度答弁を求める。

答3 空き家対策については方向性を持って利活用を進めて行く必要があり早急な対策を講じていきたい。定住者の若い世代からの経済的な不安等など様々な意見があるので今後継続する政策の取組みを探していきたい。



移住・定住者と



かわぐち よしひろ

河口吉弘 議員

質
問

持続可能な村づくり施策をどうする!

問1

令和3年度に策定した長期総合計画で設

定した重点目標は、令和8年度までの5年間に新規林業従事者を15人、新規就農者を5人、令和3年に62戸あった畜産農家を56戸と設定している。又、令和2年度に中学生7,874人であった宿泊者数を令和8年度には15,000人と設定している。

この重点目標達成のために講じる具体的施

策と来年度予算について尋ねる。また、村内各産業における人手不足を補う「特定地域づくり協同組合制度」の内容、取り組み状況について報告を求める。

答1 長期総合計画における重要業績評価指標達成のための具体的な施策については、年内を目標に策定中であり、来年度の予算に反映していく予定。

林業に関しては、これまで実施してきた各種支援策に加えて、令和3年度に「林業担い手下刈施業特別対策事業」をスタートさせ、担い手確保を図り林業従事者の減少に歯止めをかけたが、依然として厳しい状況にある。来年度は、林業を対象とした「地域おこし協力隊制度」の施策を構築する予定である。

農業については、「秘境で農業」の研修生受入を継続して実施し、Uターン者の確保を図るとともに、雨除けハウレンソウ草栽培者の受入と施設整備を進めていく。ゆとりある農業を希望する移住者もあり、住居と農地を一体的に貸付ける仕組みを模索する。

新年度では、施設整備のハード面、研修に係るソフト面の遊山の充実を図っていく。

観光については、後継者不在の旅館民宿が多く減少していく可能性が高いが、宿泊者数15,000人を達成する可能性は十分ある。関係団体の会議で事業承継や簡易宿泊等の意見も交わされている。

「特定地域づくり事業協同組合制度」については、時期によって変動する労働力ニーズに対し、若い世代の地方での仕事のマッチングを図る仕組みであり、村内事業者に対する制度周知と意向調査を実施している。村で取り組み可能かを年度内に結論を出すことにしている。

問2 令和5年度における重点目標達成のための具体的な施策を示していただきたい。

答2 具体的な例は組み立てていないが、ただいま述べたことが大枠と理解いただきたい。

問3 産業の厳しい人手不足の課題に対して、外部からの力を借りるというイメージで捉えざるを得ない。本村の林業、農業、観光業、建設業の後継者をどう確保していくか、

どう育てていくかということが一番大事なこと。各産業の意向調査を行い、その意向に対する施策展開を図る必要があるのではないか。

答3 議員が言うとおり、全ての産業において人手が足りていない状況。台風14号の災害査定を受けているが、この災害復旧についても懸念している。後継者を何とかして確保していくということが最大の課題。意向調査の話もあったが、色々な意見を聞きながら行政としてどう対応していくかが大事であると認識している。

問4 教育長が提唱している「椎葉村学」子どもたちの頃から林業の魅力、農業の魅力、畜産の魅力、建設業の魅力に対する興味と関心を醸成し、例えば農林畜産業については関係する高校・大学・林業大学校・農業大学校進学を奨励するなど、各担当課で現状と将来の展望を議論し、対策を講じる必要があるのではないか。

林業を希望する「地域おこし協力隊」に対しては、林業大学校で技術の習得による林業従事ができる仕組みをつくって頂きたい。

建設業における技能実習生の招聘については、円安の影響で日本を選択するベトナム実習生が増え始めていると報じられていたが…。

答4 外国人労働者の日本離れに懸念しており、多くの場面に登用する必要があるのではないかと思う。昔は長男が帰ってくるというのは必然的であったが、現在は担い手が帰ってこないという状況。自由な時間を求める若者の趣向を受け入れる環境づくりが必要ではないか。

色々な制度を活用しUターンする子どもたちを増やしていく。早い時期に郷土を守っていく考えを高めていくような取り組みも必要であり、そのための新しい仕組みを作っていく必要ではないかと思っている。

問5 諸塚村では平成2年に「ウッドピア諸塚」を立ち上げ、もろっこハウスや畜産センターの運営、菌床椎茸栽培、諸塚釜茶の生産、林業経営に取り組み、平成29年4月現在26名の職員が働いている。参考にして村

の後継者確保の施策を議論していただきたいと思うが。

答5 ウッドピアと同様なものが「特定地域づくり事業協同組合制度」ではないかと思う。林業を望む「地域づくり協力隊」の林業大学校での技術習得と椎葉への永住という新しい仕組みづくりも必要と思う。林業を希望する「地域おこし協力隊」の応募を期待している。



林業大学校



おまえ ひでひさ
尾前秀久 議員

質
問

避難所の通信確保と安全性の検証は!

問1

災害時全ての通信網が遮断された中、ライン電話だけが有効であった。各避難所への設置とその使用料の無料化を。

答1 現在50か所の避難所がある通信網については、現在あるものを活用してほしい。避難所の安全性については絶対安全とは言えない。今後、ハード対策を進めていくが、時間と費用が必要であり理解と協力を願う。

現在の通信網については評価できるものであり、これまでも必要と思われるものを整備してきたが、今回のWi-Fiについても検討に値するものと考え。無料化も公民館の現状から取り組んでほしい。安全性については命を守る観点からも、早めの取り組みを。

まとめ 世の中がWi-Fiの環境を広げていこうとして。無料化も費用のことがあるが、模索していく必要はある。避難所の安全性については私の公約である。100%に早期に取り組んでいきたい。

Wi-Fiは5月～10月迄でも取り組んでほしい。

質
問

ダム及び各河川に堆積する土砂の撤去をどうする?

問1

大量の土砂が各河川に堆積し、今後台風大雨時に村民にとって大変危惧され

る。撤去の考えは。

答1

河道断面の3割以上埋塞している、災害にて対応する。

砂防区域は県土木、ダムについては九電それぞれの関係機関と連携を取りながら、要望していく。

問2

すでに進んでいるとのことだが、関係機関の中には下流域町村も含んでのことか。

答2

耳川流域の首長と一体となって取り組んでいく必要があると考えている。

問3

この土砂撤去については、処分場が必要と考えるが。

答3

なかなか厳しいが、影響がない場所を検討している。

問4

各地にある休耕地、雑種地を利用するの考えは。

答4

それが可能であれば検討していく。



ダムの堆積土砂

質問 森林崩壊による災害の検証と今後の対策をどうする？

問1 今回人命、家屋と最小限に被害が収まったのは奇跡に近い。しかし、今後に警鐘を促しているように思うため、検証と共に、強い山づくりを進めるべきと考えるが。

答1 今回1,000mlを超える雨量であった。把握しているだけで21haの森林が崩壊した。今後「森林林業ビジョン」策定し刷新を図る。理想的な姿を思い描き具現化していく。

問2 椎葉村の広大な森林を未来にどう活かしていくのか、今の状態では厳しいと感じる。人員を増やし、森林林業に専門に取り組む環境の整備が必要では。

答2 「森林林業ビジョン」の達成には相当な能力が必要であり、そのような方策も併せて考えていく。

問3 森林を整備していくには、そこで働く人が必要。人材を確保の厳しい現実があることは必至。未来を描ける環境をどう作り上げていくのか。思い切った施策が必要と思うが。

答3 人材確保は何より大切であり、厳しい課題ではあるが希望ある職種にしていきたい。

まとめ 同意と受け止めた。椎葉村には植林された資産がある。これが収穫期を迎えようとしており、これを活用する施策を強く進めることを要望する。



森林崩壊の状況

質問 飼料高騰及び子牛価格の低迷に対策は！

問1 ウクライナ危機、円安による畜産家の苦難が続いている。椎葉村の基幹産業として、現状が回復するまで単独でも支援していくべきと考える。

答1 畜産業には国からの支援がある。村では自給飼料の拡大を進め、放牧の推進等コスト削減に取り組む。併せて、優良雌牛の保留導入を進めていく。

まとめ 他町村とは違い椎葉村での畜産は自然条件とともに厳しい。椎葉牛の確立を目指し増頭を進めてきたが、思いとは裏腹に減少が進み、戸数60戸飼育頭数628頭となっている。このままでは、さらに減少に転ずるものと考え、手厚い支援を切望する。



なす しげみ
那須重美 議員

質問 林業事業者への支援は！！

問1 一瞬にして収入が断たれた林産事業被害には支援がない。園芸農家、畜産農家等にはある補償制度も林業には無い為、林産事業者においては、諦めているとの声を耳にする。膨大な収穫時期を迎えている中、林産事業者の継続や事業者を

守る姿勢が求められる。足止めとなっている林産物に対する収入補償等を考えるべきではないか。

また、課題となっている数少ない林産事業者に対しての支援策が必要ではないか見解を求める。

答1 林産物に対する収入補償等は現状では厳しい。園芸作物や畜産物への補助金は設けているが、農畜産物は品質が低下し、廃棄処分となるため、生業とする農業者の収入が激

減する恐れがある。立木は資産的価値を保ち、道路復旧に伴い施業の再開が可能であると考え。木材搬出は厳しい状況が続くと思われ道路復旧に向けて尽力していく。

問2 伐採されない立木については、道路復旧後の施業で支障はないと考える。求めているのは 立木でなく、土場に積み残された材に

ついて品質と価格が下がり、林産事業者の収入は確実に激減する。搬出できずに土場に残っている材に対して他産業同様に補償支援できないものか伺う。

答2 国道388も通るようになった。五ヶ瀬方面は解放されている。少しずつではあるが、道路、国 県道も解放されている。

議員活動報告

区長会との意見交換

令和4年11月4日、役場会議室において議会改革特別委員会活動の一つとして、10地区区長と議会による意見交換会を開催いたしました。各地区が抱える課題や問題点、議会に対する意見や要望などの意見交換を行いました。その概要を報告いたします。村民の皆様のご意見をお寄せいただければ幸いです。

(梶尾区長)

- ・ 台風14号により道路が寸断、孤立状態に。消防団員がいないため地区民が倒木除去道路流入土砂除去を行なったが、日当は出せないか。
- ・ 避難所の「梶尾の館」を含め地区全体が携帯不感地区、早急に対応してほしい。
- ・ 梶尾地区には建設業がいない、台風時期の7月～10月ごろまで重機を1台配置してほしい。
- ・ 議員は選挙のときは地区に来るが、たまには状況を見て回ってほしい。

(鹿野遊区長)

- ・ 地区は64世帯、約200人。台風で6割の人がふれあいセンター、親戚宅、村外に避難した。  **鹿野遊ふれあいセンター**
村外避難者は327号線の決壊により、帰宅するのに3日間かった人もいる。議会として早期復旧を要望してほしい。
- ・ 避難所のふれあいセンター周辺は災害復旧工事を行なっている。ふれあいセンターが本当に安全な場所か心配している。
- ・ 意見交換の貴重な機会をつくっていただいたことはありがたい。議会、行政が地域をどのようにしていくかということで頑張っている。これからもこのような機会をぜひ作っていただきたい。

郵便はがき

883-1601

切手を貼って
投函いただく
か、直接議会
事務局にご
持参されても
構いません。

椎葉村議会事務局
議会だより担当 行

フリガナ
ご氏名

ペンネーム、イニシャルでも構いません

住所

□□□-□□□□



議会だよりや議会に対する意見や要望をお待ちしております。
また、議会で精査した上で議会だよりに掲載する場合があります。
あらかじめご了承ください。

(小崎区長)

- ・ 台風により小崎小学校下に堆積した河川土砂除去について九州電力と協議してほしい。
- ・ 道路差しかぶり樹木や枯松除去のため、役場に高所作業車を配備してほしい。



小崎小下堆積土砂の状況

(松尾区長)

- ・ 国道327号竹の八重周辺の河川堆土砂堆積レベルが高くなってきている。ダムを通砂により東郷地区に大きな影響が出る。また、西郷区和田地区は土砂堆積による河床上昇により人家が浸水被害にあった。
- ・ 松尾地区で家屋に土砂が流入する被害が数件あった。村単急傾斜事業補助金により被害防止策を行なうことが手っ取り早いのではないかと。事業の個人負担金の軽減について、議会で考えてもらって行政に要望していただきたい。また、現行1年の事業期間についても、現場状況に応じて2年とか3年とかにすると、要綱の見直しなど検討いただきたい。

(尾八重区長)

- ・ ダムも土砂堆積が相当進んでいる。
- ・ LINEでいつでも連絡が取れる体制をつくっている。
- ・ 議員定数について、人口が2,000人を切るような状況にあるということで、上椎葉区長が言うような話しが地区の中から出ている。
- ・ ダム湖面の木材などの浮遊物は、ダム湖遊覧を行なっている者にとって大きな影響を与えている。木材搬出のための作業道開設に何らかの規制が必要ではないか。



ダム湖の流木浮遊の状況

感想、要望などお書きください。

(仲塔区長)

- ・ 台風14号災害について、激甚災の指定により早期の災害復旧をお願いしたい。
- ・ 14号台風により電気・通信網の被害により、携帯、固定電話が不通となり連絡網が途絶えた。
- ・ 林業後継者が不足しているため、林業作業班が大変な状況になっている。国道改良工事に伴う支障木伐採作業などができるように国・県に要請してほしい。
- ・ 議員定数については真剣に考えていく時期に来ている。議員定数について、公民館連合から提案することではなく、議員たちが自らこうあるべきだと認識してほしい。

(上椎葉区長)

- ・ 議会議員定数問題について、組合長会と執行役員会に提起し議論した。日之影町議の定数と選挙人の関係を見たとき、どうかというのが率直な意見。
- ・ 台風14号の教訓と課題について、緊急避難レベル5が18日の夕方に発せられたが、かなり遅い行政判断だったと思う。高齢者が

ひどい嵐の中を避難所にいったケースがあった。

- ・避難所に Wi-Fi 環境の整備が必要。
- ・避難所の開発センター講堂の滝のような雨漏りがあり、総務課に調査をお願いしている。昨年整備した避難用エアベットは高齢者に喜ばれた。
- ・長期総合計画に付随した地区計画をしっかりと創り上げることが公民館活動を活性化させる。議会の後ろ盾をお願いしたい。
- ・台風14号により商工会会員も5億円近くの損失を受けている。議会の中での議論をお願いしたい。

(不土野区長)

- ・県道上椎葉湯前線は尾八重、尾向、不土野にとって主要幹線道路。迂回路により乗用車等の通行はできるようになったが、大型トラックで湯前に運んでいた木材は苦労している。早期の復旧の取り組みをお願いしたい。
- ・村道たかごや線の奥に暮らしている高齢の1世帯2人は、数日間孤立状態になった。避難所（不土野小学校体育館）に備蓄品を置いてほしい。また、避難所の体育館も河川の増水により危険な場所となり、夜中に子どもたちやお年寄りも教室や教員住宅に移動避難した。



不土野小下堆積土砂の状況

(尾向区長)

- ・各避難所に Wi-Fi 電話や LINE 電話が使えるような環境を整備してほしい。
- ・以前はコロナ感染者数の発表が市町村ごとに行なわれていたが、現在は県内保健所ごとの発表に変わっている。行事の開催にあたって、開催してもいいのか、自粛するか、どのくらい自粛するか分からない。椎葉のどこで感染者が出ているか分れば、行事開催の判断もやりやすくなる。どこに聞けば分かるというシステムをつくってもらえると助かる。

編集後記

村民の皆様には、健やかな新年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。また、日頃より村議会活動に対して温かいご支援、ご協力をいただいておりますことに厚く御礼申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症発生から3年目となりました。そのコロナウイルスも昨年末から感染が拡大、第8波に入っており、いまだ収束を見通すことができず、村民の皆様の生活に不安と不自由を強いております。感染拡大をいかに抑え、日常を取り戻すかという難しい課題に立ち向かう1年となりました。

加えて、昨年9月の猛烈台風14号の被害は、未だ大動脈である国道327号線、265号線の寸断と生活道路である県道・村道・林道の被害により、村民生活と産業活動に大きな影響を与えており、一日も早い復旧・復興に取り組まなければなりません。

また、ロシアのウクライナ侵攻や円安によるエネルギーや食糧、粗飼料の高騰による物価高など、暮らしに二重三重の影響を与えており、村民生活や産業活動に対するダメージは大きく、それによる支援強化は避けて通ることのできない政策課題です。

少子・高齢化の進行という厳しい環境の中で、持続可能な村づくりに村民一丸となって取り組むことが喫緊の課題です。村民の英知を集め、「ないないづくし」から、村の豊かな自然や文化、人材、価値を新たに見出し「あるあるづくし」の村づくりに舵をきりたいものです。

新年にあたって、改めて議会・議員としての責務と役割を再認識し、チーム村議会として努力することはもちろんのこと、一步一步前に進む村づくりに取り組む所存です。

ふるさと椎葉が子どもたちの夢を育むとともに、SDGs(持続可能な村づくり)に取り組み、村民の皆様とともに新たな時代を拓いてまいります。

令和5年1月1日 議会だより編集委員会一同

議会の動き

9月	29日~30日	台風14号災害調査	村内各地区
	6日	台風14号災害調査	村内各地区
10月	11日	議会運営委員会・全員協議会 第4回臨時会	委員会室 議場
	21日	議会改革特別委員会	委員会室
	28日~29日	県町村議会議員大会	高原町
			
11月	4日	議会改革特別委員会 (区長会との意見交換会)	役場3階会議室
	17日~18日	熊本県上球磨・宮崎県西米良・椎葉村正副議長会	水上村
			

11月	21日~22日	日向市・東臼杵町村議員研修会	門川町役場
			
	29日	議会運営委員会・全員協議会 第5回臨時会	委員会室 議場
	30日	西米良・諸塚・椎葉三村協議会総会 町村議会広報研修会	宮崎市 宮崎市
12月	1日~2日	郡町村議会議員研修会	日向市
			
	7日	議会運営委員会・全員協議会	委員会室
	14日	12月定例会	

お詫びと訂正：

議会だより108号(前号)4ページ一般会計補正予算の概要中、小型ポンプ操法全国大会出場に関する旅費3,000万円と記載してありましたが、正しくは300万円の誤りです。お詫びして訂正いたします。

椎葉村議会 テレビ生中継



3月定例会は3月9日開会予定となっています。

お問い合わせは議会事務局まで
(TEL 0982-67-3209)

ぜひ傍聴にお越しください。

議会だよりは村ホームページでもご覧いただけます。